

2015 年関東・東北豪雨による常総市内の教育機関と 保育所の被災と再開までの取り組み

徳島大学 正会員 ○鳥庭康代 徳島大学 正会員 中野 晋
徳島大学 正会員 金井純子 徳島大学大学院 学生員 泉谷依那

1. はじめに

2015 年関東・東北豪雨では 2015 年 9 月 9 日から 10 日にかけて、関東北部、特に栃木県を中心に 600mm 以上の大雨が観測され、茨城県常総市内でも市域の約半分に相当する鬼怒川と小貝川に挟まれたエリアがほぼ水没し、常総市役所などの主要な防災拠点を始め、指定避難所となっている小中学校も浸水被害をうけた。11 月と 1 月に県と市の教育委員会、学校園、保育所等でインタビュー調査を実施した。また、1 月には教育委員会等で入手した被害写真をもとに、学校園で、保育所周辺での浸水位を RTK-GPS 測量により求めた。証言内容、行政の記録、浸水データなどから、教職員の参集と浸水前の対処行動、浸水開始後の避難行動、避難所の運営支援、児童・生徒の安否確認、学校再開までのプロセスなどについて検討した。

2. インタビュー調査

(1)調査方法

常総市内では公立小・中・高等学校と公立幼稚園の中で 5 校（TA 小、O 小、I 中、M 中、M 高）、2 園（TA 幼、M 幼）、公立保育所では 1 所（3 保）がそれぞれ床上浸水となった。2015 年 11 月 12 日に常総市教育委員会と常総市保健福祉部こども課の担当職員より、被害と復旧状況の概要についてお聞きした。その後、こども課の計らいで、市役所内で公立保育所長 5 名と面談する機会を得て、5 名一緒に対応状況についてお聞きした。また、同 26 日は床上浸水被害を受けた小・中学校 4 校を訪問し、学校長または事務職員からお話を伺った。幼稚園については床上浸水被害を受けた 2 園が幼稚園の改修が終わるまで、TO 幼稚園で 3 園合同の保育を行っているため、TO 幼稚園に伺い、3 園の園長から一緒にお話を伺った。2016 年 1 月 15 日は茨城県の教育庁と保健福祉部こども家庭課を訪問して、県としての対応についてお伺いした後、浸水被害を受けた常総市内の私立 H 保育園でヒアリングした。翌 16 日には県立 M 高校を訪問したほか、RTK-GPS 測量を行った。

(2)調査結果

1)小・中学校

TA 小学校では床上 0.8m、校庭では 1.3～1.6m の浸水被害を受けた。浸水発生時には校長と教頭が出勤し、浸水に備えて、パソコンや書類を 2 階に移動させた。TA 小学校は若宮戸の溢水地点に近く危険であるため、より安全と思われた I 中学校に避難した。学校再開に向けた復旧活動では松戸市社会福祉協議会、県内大学のサッカー部、常総市内の他校の教職員など多数のボランティアの協力があつたが、宗教団体の救援部隊による組織的な活動があつた。

O 小学校は八間堀川沿いに立地し、八間堀川からの氾濫で校庭の一部では 3m 以上浸水するほどの浸水被害を受けた。この学校の浸水は 10 日の夜から翌朝にかけてであると推定され、教職員は 10 日の 17 時まで勤務した後、帰宅している。11 日から 14 日までの 4 日間、周辺の道路が冠水し、立ち入ることができず、15 日ようやく被害確認ができたような状況であつた。深刻な被害のため、O 小は 9 月 24 日から 3.4km 離れた G 小に間借りした形で学校再開した。

I 中学校は床上 0.7m、校庭では 1.2m 程度まで浸水した。学校への参集は 10 日 5 時半までに校長と教頭が参集し、7 時過ぎには道路冠水により、登校できなかった 2 名を除く 15 名（17 名中）が参集して災害対応にあたつた。被災前の対応としては、休校連絡、PC サーバーの停止、浸水に備えて生徒の荷物等の移動、自家用車の高所への移動である。休校連絡は 7 時に一斉メール（マチコミメール）や電話連絡等で行っている。浸水に備えて、9 時 50 分までに 8 名が帰宅したが、残った 7 名と避難してきた TA 小の 2 名の 9 名は浸水のため、10 日

は中学校に宿泊した。電力の復旧は 15 日、水道は 22 日の夕方に復旧し、学校は 24 日に再開している。

M 中学校も O 小と同様に 10 日の夜から翌朝にかけて浸水したため、浸水発生時には教職員は不在であった。10 日に I 中学校が被災したことを聞き、主な荷物や機器は教職員総出で 10 日の内に 2 階に移動している。被害状況は床上 0.2m 程度で、床や棚などの合板がめくりあがるなどの被害が出ている。また校庭での浸水深は深い所で 0.85m である。幸いなことに泥の堆積は少なかったため、グラウンド表面の土の入れ替えなどは不要で、石灰消毒のみを行っている。9 月 18 日午前中に全校集会とホームルームのみの登校日を設けた後、シルバーウィーク明けの 9 月 24 日から学校を再開した。この学校でも 16, 17 日と宗教団体の救援部隊による清掃と消毒の環境整備活動があり、18 日の全校集会開催に間に合った。

2) 高等学校

M 高校は玄関で 0.89m の浸水があった。広域から通学している生徒が多く、ご家庭が被災された生徒が多い中で「緊急情報メール」システム（登録率 95%程度）を利用した安否確認と個別での連絡を行った。停電、危機の水没により学校の通信機器はすべて不通・不能となった。9 月 10 日から 24 日までは臨時休校、14 日には造園建設業協会、塗装協会のボランティア派遣で断水の中、高圧洗浄車による校舎の清掃作業を行った。9 月 25 日に水と電気が復旧したことで学校再開をしている。

3) 幼稚園

幼稚園では床上浸水被害を受けた 2 園が幼稚園の改修が終わるまで、TO 幼稚園で 3 園合同の保育を行っているため、TO 幼稚園にて、3 園の園長から一緒にお話を伺った。TA 幼稚園は床上約 0.8m、園庭では約 1.1m の浸水に加えて、厚く泥の堆積があった。M 幼稚園は床上約 0.5m、園庭では約 1.1m の浸水があった。一方、T 幼稚園は付近の道路は 0.5m 程度冠水して通行できなくなったが、園庭は周囲より高くなっているため、浸水を免れた。TA 幼稚園長は 6 時半過ぎに道路が冠水する中、迂回しながら登園した。7 時 30 分まで避難者への対応などを行っていたが、学校教育課より早期避難の指示を受けて、8 時に M 幼稚園へ避難した。しかし、9 時頃には M 幼稚園も浸水し始めたため、豪雨と道路冠水の中、命の危険を感じながら、TA 幼稚園長は東方向に、M 幼稚園長は鬼怒川を渡って西側へ避難した。職員全員、無事避難できたが、避難直後には鬼怒川堤防が決壊しており、水害時の避難対応の難しさを感じられていた。9 月 16 日から、3 園合同の保育として TO 幼稚園で再開された。

4) 保育所（園）

鬼怒川の西側の第 1・第 4・第 5 保育所は被害がなく、東側の第 2・第 6 保育所は停電や断水被害、第 3 保育所の 1 所が床上 20～30cm の浸水被害を受けた。いずれの保育所でも 10 日は 7 時 30 分から保育を開始している。

被災した第 3 保育所でも 0 歳児からの受入れを行い、71 名の乳幼児が登所していた。9 時 10 分には若宮戸で溢水したことを把握、最も溢水現場に近い第 6 保育所周辺では浸水が始まったことを受け、9 時 45 分に保育中止とお迎えの連絡を入れたが、昼食後の 12 時 30 分まで引き渡しがかかった。11 日は全所でお休みとなった。

13 日に被災しなかった西側地区での合同保育を決定し、14 日から第 1 と第 6 は第 1 保育所で、第 2 と第 5 は第 5 保育所で、第 3 と第 4 は第 4 保育所で応急保育を始めた。14 日から 16 日の 3 日間は弁当持参の希望保育としたが、被災して弁当を持参することができない乳幼児には災害救助物資で代用した。17 日からは西側地区の 3 所にて給食が再開されて、普通保育が始められた。

私立 H 保育園では園舎の周囲で 0.7m 程度の浸水があった。2 時 20 分に地区に避難指示が出される中でも 7 時 30 分から 8 名の乳幼児を受け入れている。8 時半には職員 10 名全員が出勤したが、すぐに若宮戸からの溢水に伴う浸水が始まり、向かいの民家に避難した後、ヘリコプターで救助された。翌日 11 日は休園、12 日からの 3 日間で衛生的な復旧清掃、17 日からは姉妹園で合同保育を開始している。

謝辞：本調査を行うにあたり、ご多忙の中、インタビュー調査にご協力いただきました茨城県教育庁、茨城県保健福祉部、常総市教育委員会、同保健福祉部、常総市内の幼・小・中・高等学校、保育所（園）の教職員の皆様に深く感謝申し上げます。